

# 滄水会ニュース

第10号

平成8年7月15日

滄水会

職業能力開発大学校

〒229 神奈川県相模原市橋本台4-1-1

## 3年を振り返って

滄水会の会長を引き受けて、任期の3年も終えようとしています。振り返ってみますと、いろいろなことがありました。まさしく「無我夢中」でやって参りました。

それまで、正直なところ同窓会の活動に積極的ではなかったばかりか、卒業生が主にどんなところに就職しているか—などもあまり知りませんでした。第一期生として社会の荒波をくぐり抜けるのに、とても余裕などなかったというのが本当のところです。しかし、そんな私が会長に選出されたのです。私は会長就任にあたり、次の3つのことを密かに我が胸に誓いました。

- ① 会員同士が利益を生むような同窓会にしよう。
- ② 会員間の情報交換が密になるようにネットワークを抜けよう。
- ③ 大きな目標よりも着実に実行できるところから始めよう。

以上の信念で、まず同窓会の名簿を整備することを重点の施策のひとつとしました。名簿はネットワーク構築でも欠かせないものです。これまでの名簿では、勤務先はわかっても、肩書



会長 尾身 嘉一

きまでは掲載されませんでした。これではビジネスでちょっと聞いてみようと思っても電話がしにくいものです。肩書きを入れるのに一部慎重な意見もありましたが、あえて踏み切りました。30周年記念事業の柱に据えたことも追い風になったと思います。

また、名簿づくりそのものを外部に委託することで正確さを期しました。同窓会名簿づくりを専門としている出版社があり、追跡調査もシステムティックに行うなど安心して任せられるものです。しかも、これまでの費用を大幅に下げることができました。結果的には大成功だったと自負しております。

具体的な形となったものとしては、ほかに卒業生へのメダル授与があります。成績優秀な学生を各学科あたり1人、「滄水会賞」として卒業式の当日に表彰しようというもので、この3月の卒業式で第1回目を実施しました。表彰者選定に際しては、大学側にも協力をいただき、8人を表彰しました。

メダルのデザイン・制作は能開大造形工学科の2先生にお願

いし、期待どおりのすばらしいものになりました。デザインコンペティションでは数々の賞を受賞されている高山英樹助教授、芸大彫刻科出身で環境造形を専門とされている中村元隆の共同制作で、「水」をテーマに、伸びゆく若い力をデザインしてもらいました。手のひらに乗る円形の文鎮のようですが、そのブロンズの質感は年を経るごとに趣を増していくものと思います。

もう一つ報告しておきたいことは、以前にもニュースレターで書きましたが、早川宗八郎校長のお取り計らいで雇用促進事業団の清水傳雄理事長にお会いする機会を得たことです。滄水会理事会三役と早川校長、それに矢田貝理事を交え、清水理事

長と約1時間、理事長室で歓談することができました。これがきっかけとなり、大学とのパイプも一段と太くなったように思います。

最後になりますが、昨年は滄水会創立30周年ということで、会員諸兄に寄付をお願いしたところ、快く多数の方々から協力をいただきました。まことにありがとうございました。我々の任期も秋の総会までですが、最後までやり抜き、新しい体制に譲りたいと思います。今後ともご協力をよろしくお願いします。

〈1965年第1回卒、木材加工科建築専攻〉

## 滄水会賞授与について

滄水会創立30周年を記念して創設された「滄水会賞」は、その榮譽ある第1回目の授与式が平成8年3月25日(月)に挙行されました。この授与式は、第32回職業能力開発大学の卒業式後、滄水会主催のもとに執り行われました。大学関係者、名誉教授等のご列席を得て、まず福島理事(金属材料科第14回卒)の開会の辞に引き続き、尾身会長のあいさつ、次に審査委員会によって選考・承認されました受賞者に対して、会長より賞状ならびに副賞としてメダルが授与されました。なお、滄水会賞の授与対象者の選考は、次のような手順によって行われました。滄水会賞授与要領(平成7年度ニュースレターあるいは1995年版滄水会名簿に記載)にもとづいて、平成8年1月15日から1月30日までに滄水会に対して各学科より長期課程卒業予定者の中から原則として1名の学生を推薦していただきました。次に、滄水会賞授与審査委員会(早川校長、竹村副校長、手塚学生部長、尾身会長、松沢副会長、荒副会長で構成)を3月7日にパークハイアット東京において開催し、各学科より推薦されました学生各々に対して審査委員会運営要領にもとづき、厳

正な審査を行いました。本年度は、各学科より推薦されました学生全員が滄水会賞にふさわしいとして承認されました。

また、当日、賞状とともに授与された副賞のメダルは、能開大造形工学科の高山助教授のデザイン、同工学科中村講師の制作によるものです。デザインは、会の名称である「滄水」から多摩の清流をイメージし、泉から吹き出す水と植物の芽吹く力の勢いを表現したとのことです。

### 滄水会賞受賞者

|                |                |
|----------------|----------------|
| 指宿 宏文(産業機械工学科) | 古賀 敏彦(生産機械工学科) |
| 鈴木 康弘(電気工学科)   | 森口 肇(電子工学科)    |
| 平井由希子(情報工学科)   | 岩田 聖司(建築工学科)   |
| 太田 雅裕(造形工学科)   | 佐藤 一晃(福祉工学科)   |

なお、平成7年度長期課程卒業者の総数(内訳)は、次のとおりです。

産業機械工学科36名、生産機械工学科27名、電気工学科29名、電子工学科31名、情報工学科39名、建築工学科42名、造形工学科41名、福祉工学科26名、合計271名



## 滄水会総会の開催について(ご案内)

本年は、平成5年から平成8年の役員の任期満了にともない滄水会総会の開催年度になっております。総会の開催予定日が決定いたしましたのでご案内申し上げます。当日は、あわせて講演会および懇親会を開催します。本会は、参加者の規模を200名で計画しております。会員の皆様のご協力と多数のご参加をお願いいたします。なお、9月上旬には詳細を会告にて通知いたします。

### 滄水会総会予定

開催日 平成8年10月12日(土)

開催場所 東海大学・交友会館

時間 総会：午後2時～4時

東京都千代田区霞ヶ関3-2-5

講演会・懇親会：午後4時～6時

霞ヶ関ビル33階

## 最近の能開大の動き



職業能力開発大学校 長期課程部長 鈴木 建夫

私は、東京都小平市小川西町に在った職業訓練大学校に、昭和42年11月から勤務し、20年以上にわたって物理の教師をしてきましたが、平成3年からは4年間、訓大を離れ北海道短大の校長を経験して参りました。いま浦島太郎として帰ってきた私ですが、直ちに長期課程部長の職務を行うことになかなりの危惧を持っておりましたが、幸いなことに仕組まれた意地悪にも合わず、ようやく1年が経過いたしました。私が帰任いたしました昨年度は、新棟建設工事の真っ最中であり、新棟の部屋割りも、新棟へ転居する電気工学科、電子工学科、情報工学科の3科の跡地利用の部屋（実習場、実験室、教員研究室）割りも、新基準のカリキュラムも、多目的実習棟の機器リースも、前年度までにほぼ決められていた中での実行運営でした。何時でも誰にとっても未来予測は困難ですが、未来予測なしの政策決定はあり得ませんし、大学運営に必要な未来予測は最短でも10年後の予測を必要とします。残念ながら、バブル末期の政策決定の上に築かれた、今回の新基準カリキュラムと各工学科学学生定員は実行の初年度から見直しが必要となっています。新棟建設計画は平成3年の『実習場等再編整備に関わる基本構想』における「本学の特色を生かした実践的な実習・実験教育・研究が行えるような実習場」をはじめとする14項の基本理念から出発しました。その後、平成5年に事業団本部『職業能力開発大学校実習場建替えプロジェクト会議』に場が移され、「技術革新、情

報化、サービス経済化等の経済社会の変化が一層激しくなる21世紀を展望し、中長期的な視点に立って指導員養成二一ズを的確に把握し、これに対応できる訓練科のあり方（ソフト面）を決定し、これに基づいた訓練目的が最大限発揮できる施設整備」の構想の基に建設計画が進められました。出来上がった新棟は、床面積約8千㎡の6階建てで平成8年3月に引越し大作戦が展開されました。最初のもくろみは約1万㎡でしたので、出来上がった部屋は多少こぶりとなり、特に教員研究室は旧棟と比べるとかなり手狭となっております。さて、能開大教員の最近最大の関心事は、なんと申しまして交流派遣人事でしょう。平成7年度には難産の末、高度ポリテクへ小川助教授、中部ポリテクへ玉井助教授の2名の交流派遣が決定し、東京短大、群馬短大、滋賀短大からは3名の講師を交流人事として受け入れました。平成8年度交流人事は、前年度の人選における難産に配慮して団本部は6月早々に、関西・中部・高度の3センターへ5名の交流派遣を要請して参りました。しかしながら、最後の1名の同意は3月末ぎりぎりまで得られませんでした。また、交流受け入れとしては、教授、助教授、講師合わせて11名でした。一方、交流人事の先駆けとして、3年間高度ポリテクセンターで勤務されていた八田助教授が帰任に際して、能開大電算機室教授に昇格されました。

### 《維持寄付》のお願い

卒業生総数の増加や物価上昇等により、会員の皆様から卒業時に頂いた会費のみでは会の維持が困難な状況になってきております。そこで、これまで卒業後20年の節目を迎えた会員の皆様には「維持寄付」をお願いしてきております。今年には12回卒業生（昭和51年卒業）が卒業後20年の年に当たりますので、同封してあります振込用紙でご寄付の程よろしくお願いいたします。寄付金の額は、1口5千円（出来るだけ2口以上）をお願いしております。

なお、維持寄付の対象会員で前回までに寄付を頂いてない会員につきましても振込用紙を同封しておりますので何卒よろしくご協力をお願いいたします。

### 『滄水会名簿（30周年記念号）』の頒布について

標記名簿にいくらかの残部がありますので、入手希望者は下記要領でお申し込みください。

- ・現金書留による（実費1,000円および切手（送料310円分））
- ・送付先住所、氏名（卒業年度、卒業学科を明記）
- ・申込み先：〒229 神奈川県相模原市橋本台4-1-1 能開大内滄水会事務局

# 95年度卒業生進路状況について

学生部学生課

95年度の長期課程卒業生及び研究課程修了生の進路状況については別表のとおりです。

昨年度の進路の特徴としては、例年以上に都道府県指導員への就職が増えたことです。これは単に地元へのUターン就職希望が強くなっての増加だけではなく、雇用促進事業団職員(職業訓練指導員)枠の減少、民間企業の引き続き不況による求人数の減少などが要因として上げられます。また、都道府県の採用職種と出身者の卒業学科のミスマッチにより、必ずしも地元の都道府県ではなく、採用試験を受けられた都道府県へ就職する場合も多くなっています。

本校の設立趣旨は職業訓練指導員養成ですので、卒業生全員が指導員として活躍できる場を学生に提供することが必要ですが、受け皿には限界があるのも現実です。少ない採用枠を確実に確保するために、各都道府県指導員の採用試験対策等として、公務員試験対策のゼミや、作文試験対策ゼミなどを実施してきました。さらに、面接試験は就職、進学等必ず避けては通れない試験であり、場数を踏んで慣れてもらう必要がありますので、面接試験対策講演や模擬面接を実施しています。

## 平成7年度 長期課程卒業生進路状況

| 進路<br>科名 | 卒業<br>者<br>数 | 公共職業訓練指導員等                      |  |                        |   | 官公庁等                  |                       |             | 民<br>間 | 進学等              |                                 |                                 | そ<br>の<br>他 |
|----------|--------------|---------------------------------|--|------------------------|---|-----------------------|-----------------------|-------------|--------|------------------|---------------------------------|---------------------------------|-------------|
|          |              | 雇<br>用<br>促<br>進<br>事<br>業<br>団 | 都<br>道<br>府<br>県   | 法<br>務<br>省            | 認<br>定<br>職<br>業<br>訓<br>練<br>施<br>設<br>等 | 国<br>家<br>公<br>務<br>員 | 地<br>方<br>公<br>務<br>員 | そ<br>の<br>他 |        | 研<br>究<br>課<br>程 | 他<br>大<br>学<br>大<br>学<br>院<br>等 | 当<br>大<br>学<br>校<br>研<br>究<br>生 |             |
| 産業機械工学   | 36           | 5                               | 宮城県 1<br>栃木県 2<br>埼玉県 1<br>千葉県 1<br>滋賀県 1<br>高知県 1<br>福岡県 1<br>長崎県 1 | 山形刑務所 1<br>福岡刑務所 1     | 0   | 0                     | 0                     | 0           | 13     | 1                | 1                               | 2                               | 3           |
| 生産機械工学   | 27           | 10                              | 千葉県 1<br>静岡県 1<br>高知県 2  | 函館少年刑務所 1<br>奈良少年刑務所 1 | 0   | 1                     | 0                     | 0           | 7      | 1                | 0                               | 1                               | 1           |
| 電気工学     | 29           | 10                              | 福島県 1<br>千葉県 1<br>岡山県 1<br>愛媛県 1                                     | 神戸刑務所 1                | 0   | 0                     | 0                     | 1           | 12     | 1                | 0                               | 0                               | 0           |
| 電子工学     | 31           | 10                              | 青森県 1<br>茨城県 1<br>群馬県 2  | 横浜刑務所 1                | 0   | 1                     | 0                     | 0           | 7      | 5                | 2                               | 0                               | 1           |
| 情報工学     | 39           | 9                               | 愛知県 1  |                        | 0   | 0                     | 0                     | 0           | 23     | 0                | 1                               | 0                               | 5           |
| 建築工学     | 42           | 8                               | 茨城県 1<br>栃木県 1<br>埼玉県 1<br>岐阜県 1                                     |                        | 0   | 0                     | 0                     | 1           | 19     | 1                | 2                               | 1                               | 5           |
| 造形工学     | 41           | 2                               | 北海道 1<br>宮城県 1<br>神奈川県 1<br>富山県 1<br>福井県 1<br>愛知県 1<br>佐賀県 1         |                        | 0   | 0                     | 1                     | 0           | 26     | 1                | 2                               | 0                               | 2           |
| 福祉工学     | 26           | 9                               | 宮城県 1<br>福岡県 1   |                        | 0   | 2                     | 0                     | 0           | 6      | 4                | 0                               | 0                               | 2           |
| 合計       | 271          | 63                              | 35   | 6                      | 2   | 3                     | 2                     | 2           | 113    | 14               | 8                               | 4                               | 19          |
|          |              | 106                             |  |                        |   | 7                     |                       |             | 26     |                  |                                 | 19                              |             |

平成8年3月31日現在

また、1人ではなかなか見学しにくい法務省矯正施設の見学も開催しています。

就職希望者がほぼ全員進路を決めたわけですが、指導員としての進路を取る者も、民間企業の技術者等としての道を決めた者でも、非常に厳しい就職戦線であったことには変わりはありませんでした。

今から巣立っていく学生の進路拡大のため、今後とも滄水会会員各位のご協力をご援助をいただきますよう宜しくお願い申し上げます。

## 平成7年度研究課程修了者進路状況

単位：人

| 進路<br>専攻 | 修了者数  | 職業訓練指導員                         |                  | 民<br>間 |
|----------|-------|---------------------------------|------------------|--------|
|          |       | 雇<br>用<br>促<br>進<br>事<br>業<br>団 | 都<br>道<br>府<br>県 |        |
| 機 械      | 12(3) | 10(3)                           | 1                | 1      |
| 電気・情報    | 8(2)  | 8(2)                            | 0                | 0      |
| 建築・造形    | 7(2)  | 4(1)                            | 3(1)             | 0      |
| 計        | 27(7) | 22(6)                           | 4(1)             | 1      |

( )内は、在職職業訓練指導員で内数。平成8年3月31日現在

単位：人